

幼児教育と教具



牛 島 義 友

教具とは「教授に要する図書、器械、標本の総体」と言う人もあるが、その「教授を具体化するための直観的方便物」として教科書や学用品と区別して直観のための標本や図表をさす人もある。これはフレーヘル之恩物、モンテッソリーの教具にはじまるとされている。すなわち今日の学校教育において欠くことのできない教具は幼児教育からはじまったものである。ところが今日、わが国の幼児教育においては、フレーヘル之恩物は使われず、モンテッソリーの教具など見たこともない人も多かろう。これに代る新しい教具が考案されていくわけでもないし、教具の研究は影をひそめてしまった。

ヨーロッパの幼児教育においては、モンテッソリーの感覚訓練的

な教具が盛んに使われ、さらに子どもの興味に即した新しい教具がたくさん作られている。なぜ日本において教具が尊重されないのであらうか。

〈自由保育〉

教具は感覚訓練とか文字の学習とか言うようなはっきりした学習目標があってそれを有効に習得するための道具である。このようにはっきりした教育目標がなければ教具の必要も生じてこない。わがくにの幼児教育も初期の段階ではフレーヘルの教育理念などが直輸

入され、当時の分析的な要素心理学の考えに基づいた個々の精神機能の訓練を行なっていた。しかし幼児教育においては個々の精神機能よりも子どもの生活そのものの充実に意を用い、知的機能のみならず情操や社会的機能の調和的育成を重視するようになり、自由保育が尊重され、今日においても経験学習と総合的保育が主流となっている。このことは、モンテッソーリ流の教具を廃棄することとなった。自由保育や生活学習では幼稚園の中に幼児の自然の生活を再現することが大切であるので、このために必要な材料は生活用品や自由遊びの道具が主になる。たとえば洗面器や食事のための机、食器も実は大事な道具であるし、昆虫や草花、あるいはままごと道具なども自由遊びの大切な道具となる。これらの道具はそれからいろいろの生活が発展していくことがぞましいので、単一の用途しかないものよりはあらゆる用途に発展使用できる素材的のものがより望ましいものと考えられている。たとえば積木は一定の形のみを作るのでなく、自由にいろいろのものを構成し、さらに構成したものを利用して他の遊びに発展するものの方が望まれる。フレーベルの恩物の積木はきめられた形と数で一定のモデルを模倣することが要求されるが、今日の積木は何を作ってもよいし、また作った家の中で、ままごと遊びができるために大型の箱積木などが歓迎される。

現代の保育において比較的教具的性格を残しているのは運動用具

だけであると言えよう。ブランコとか、わく登り、などは直接の生活と関係がなく、むしろ運動機能を発達させるためののみ、考案されたものである。すなわち子どもの運動能力と興味を考えながら新しい教具が工夫されてくる。生活学習の道具としては生活的なもの、日常生活と密接な連絡を持っているものがぞましいが、いわゆる教具は複雑な生活機能の中から特定の精神機能を取り出し、その訓練のために考え出されるものであるから日用品とは無関係な抽象的のものとなってくる。教具として精巧なものほどたった一つの目的にしか役立たなくなる。たとえば生活学習ならばヒスケットを与えてついでに数の勉強をさせることもできる。この場合のヒスケットはおやつにもなるし、数の計算の道具にもなるし、またごぼうびとして利用することもできよう。しかし計算を教えるために工夫された教師用のそろばんなどは計算学習にだけしか役立たないし、しかも大型であるので計算の実用にも役立たず、ただ教えることにだけ役立つ。あるいは人体の模型、ピストンの構造を教える教具などはいかに精巧にできていてもただ一つの教授目的にしか役立たないものである。しかしその一つの目的のためには何物にもまして有効な学習道具である。

今日幼児教育において、自由保育の精神が尊重されていることはありがたいことである。しかし領域別の保育が強調され、数やこと

ばの基礎学力の習得が要求されてくると、今までのような生活を豊かにする道具から、専門的な教具へと転換して行く必要も起こるのではなからうか。ドイツやフランスにおいて、モンテッソリーの教具や考え方が今でも尊重されているのは、実は先知主義的教育理念が背景に存するからである。特にフランスにおいては教育はすべてはつきりした目標のもとに計画されており、いかにしたら早く文字や数の学習ができるか、ということに力を注いでいるようである。

このためにはまず、形や大きさについての正しい弁別力の養成、習得が要求され、モンテッソリーのやり方が最も合理的なものとして使用されている。ことばの学習などでもただ子ども達が勝手に話し合う経験を通して習得はできるけれども、これに教具を利用すれば一層効果的であろう。絵本を見せて、話し合いを展開させることは自然の話し合いを待つよりは有効であるし、さらに親や先生とは話しても、人前では話す事のできない子どもには電話を使って社会的抑圧を減じて会話をさせるとか、二人だけの会話をテープに録音して、後でそれを皆の前で聞かせるといった方法で話す態度とか、あるいはその場合に必要なことがらを学習させることができよう。さらに文字を学習する場合には「文字板」を利用することは非常に有効である。この簡単な板きれば字を書くというむずかしい作業から一応解放してくれるし、自分が知っている数個のかなを組み

合わせていろいろのことばをよんだり構成させると、子どもは実に容易に興味をもってかなを覚えてしまう。

数の学習は教具なしではほとんど不可能である。このような文字や数についての基礎学力が幼児教育においても要求されてくると（これは世界の幼児教育のすう勢であって、ただわが国のみが必死になって、幼稚園からこれをしめ出そうと努力していたように思われる）当然これに関連した教具が必要になり、いろいろの新しい有効な教具が工夫されてくることであろう。

今日のわが国の幼稚園においては一応学習的のことは除外されている。しかし大都会の家庭では特定の小学校に入学するためにテストの練習が大はやりである。このテストはおよそ実生活と縁のない抽象的な精神機能の訓練である。機械的記憶力、図型の構成、などとモンテッソリー方式が実はそのままくり返しくり返し練習させられるものである。幼稚園でいくら自由保育をしても、テスト塾でこのような訓練が必要というのならば、幼稚園の中で無味乾燥として育てられたモンテッソリー法をもう一度考え直すこともよいのではなからうか。もっとも私はテストの練習を奨励するのではなく、基礎的精神機能の訓練を計画的に行なうことを要請しているのである。

一斉保育を行なう時には子どもの興味や注意を一つに集めるために紙芝居、スライド、テレビなどの視聴覚教材や音楽リズムのためのピアノやレコード、あるいは製作のための材料などが用いられるが、この場合には特に保育のために工夫された道具というよりも一般の通信器具や楽器などが利用され、また新しい機械が発明されることによって保育の道具も豊富になる。しかし教育のために特別に工夫される道具は一斉保育よりも個別指導、あるいは普通教育よりも特殊教育において一層その重要性をましてくる。一斉保育についていけない子どもには精神機能、運動機能、あるいは性格のいずれかに欠陥や発育障害があると考えられる。このような子どもの指導には一般的の生活活動を刺激するだけでは不十分であって、問題となる精神機能を発見し、その機能を訓練するような特殊な指導が必要となってくる。こうなると一斉指導の道具では役に立たず、特殊な道具としての教具が考案されねばならぬ。

特殊教育の発達は教具の発達に依存するといってもよい。ここでは普通教育でなされる教材や教科書も役に立たず、算数や言語の最も基礎的機能の訓練からはじめねばならない。たとえば脳性小児マヒの言語指導では発音の前に吐く息の調節から教えねばならず、そ

のための教具が必要であり、あるいは運動機能の訓練のためには特殊器具が必要である。

しいのみ学園の山本先生はこのような教具をたえず工夫されて三百種以上の考案をされているが、ここではまさに手足の訓練を重視し、手は頭の外にある大脳であるという考えのもとで観念的な知識訓練ではなく、手を動かすことによって精神機能の訓練に力を注いでおられる。このような治療教育とか、個別的指導が重視されれば当然、治療的意味をもった教具が発達してくる。わが国の幼児教育で特殊の教具が発達しなかったのは一斉保育的態度が強くて個別的指導、特に問題をもった子どもへの指導の態度が少なかつたためではなからうか。

以上の事柄を反省してみると今後の幼児教育の一つの課題として新しい教具の開発が期待されるのではなからうか。成長した者にとっては言語による説明とか、理論付けが最もよい学習であるが、幼児においてはもっと具体的な直観的な方便物が必要であり、教具なしに幼児教育を考えることは不可能なはずである。さればこそフレールヘルやモンテッソーリはまず見物や教具の整備に力を注いだ。今日においても幼児教育が進歩するためにはそれにふさわしい研究がすすめられるべきではなからうか。